

令和8年1月吉日

様

宮城大学看護学群看護学類  
教授 大沼 由香

### 研究協力をお願い（依頼）

拝啓 時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本学の教育・研究活動の推進につきましてご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。現代は介護支援専門員の離職や担い手不足、シャドーワーク、タスクシェア、困難事例の増加による負担の増大等、地域包括ケアの実現課題は多種多様であり複雑化しています。

私は、高齢者ケアに関わる専門職を対象として、地域ケア会議や事例検討を通じた専門職支援の実践研究をしております。これまで元神奈川県立保健福祉大学教授の峯尾武巳先生らと「わかる事例検討会」という名称で、2012年から参加者のリフレクションを促進し、コンパッションの場となる事例研究方法の研究に取り組んできました。2023年からは科学研究費補助金の助成を受け、参加者がケアされ・多職種連携の理解が深まり・対話をとおして支援方法がわかる「多職種連携基盤型事例検討会の運営方法モデルの開発」研究に取り組んでおります。おかげさまで多くの皆様のお力をお借りし、モデル案が完成しました。

そこで、本研究では開発したモデル案を用いて多職種連携基盤型事例検討会の研修会（以下、リスクリングセミナー）を実施し、参加者アンケートでモデル案の検証を行います。ぜひ、研究協力者の募集についてご協力いただきたく、広報活動をお願いする次第です。ご協力いただける場合は、下記 Google フォームにご入力をお願いいたします。

研究内容については別紙（研究説明書）をご一読ください。本研究を行う際は、守秘義務を厳守し倫理的に対応いたします。関係機関や学会等での報告においても研究参加者に不利益が生じないよう対応することをお約束いたします。ご不明点と倫理面での疑問等は、下記の連絡先へお問い合わせください。御多用とは存じますが、ご協力くださいますように何卒よろしくお願い申し上げます。本研究は宮城大学研究倫理専門委員会の承認を得ています（宮城大第 857 号）。

敬具

### 記

研究課題：保健医療福祉職者による多職種連携基盤型事例検討会の運営方法モデルの開発  
—運営方法モデル案の検証—

研究代表者名：大沼由香（宮城大学看護学群）

調査方法：モデル案を用いたリスクリングセミナーの実施とアンケート調査

調査期間：2026年4月から7月

調査対象：保健医療福祉介護等の専門職、

依頼事項：①研究協力の承諾。[Google フォーム] (<https://forms.gle/4z5B9JNTdVMkprsP7>) から入力  
をお願いします。（本用紙裏面に QR コードがございます）

②研究協力者募集案内（リスクリングセミナー）の会員への広報。

チラシ送付・チラシデータ送信先は、①のフォームにご記入ください。

以上

<p>〔研究内容に関するお問い合わせ〕</p> <p>研究者：大沼由香 〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 E-mail onumay@myu.ac.jp Tel.022-377-8258（研究室直通）</p>	<p>〔研究倫理に関するお問い合わせ〕</p> <p>宮城大学研究倫理専門委員会委員長 武田和久 〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 E-mail: kenkyu@myu.ac.jp Tel.022-377-8319</p>
---	--

# 承諾書・チラシ送付入力フォーム

下記 QR コードからご入力をお願いいたします。



---

研究事務局

公立大学法人宮城大学看護学群

大沼由香研究室

連絡先：リスキリングセミナー事務局

[reskillingseminaroffice@gmail.com](mailto:reskillingseminaroffice@gmail.com)

研究室Tel 022-377-8258（直通）

---